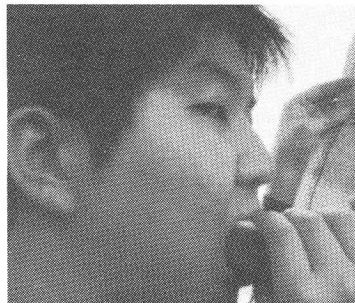


## ビームラインアシスタントの感想

東京大学大学院農学生命科学研究科応用生命工学専攻  
酵素学研究室 博士課程 2年 日高 将文  
E-mail: aa27098@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp

“機会があれば、また働かせてください。今度はもう少し暖かい時期に…”とは、2001年2~3月にアシスタントをさせていただいた時の体験記の締め括りの言葉です。実のところ、当時はまだ結晶構造解析を始めたばかりで、ビームラインのこと、コンピューターのことなど何も分からず、ユーザーの皆様質問されるのが怖くて、ずっとアシスタント部屋に引きこもっておりました。あれから二年が経ち、多少は構造解析とコンピューターの使い方が分かるようになりましたので、前回のリベンジのつもりで5月13日から6月9日までの4週間、再びアシスタントをさせていただきました。



BL-6A、18Bはスタッフの方々、歴代のアシスタントの方々の御努力により、ほぼ完璧な環境が整っているため、私がお手伝いさせていただくようなこともありませんでした。またNW-12は立ち上がったばかりで、機器、コンピューター、プログラムとトラブルが起きましたが、私が修復できるようなものではなかったため、休日もなくトラブルに対処されていた松垣先生、五十嵐先生、鈴木先生を横目に見ながら、今回もあまり仕事をせず、申し訳ない思いでおりました(後半はNW-12も安定運転になっていたのも、非常に強いビームと洗練されたコンピューター環境により快適に使うことができるようになりました)。

今回は自分のサンプルを用意しておりましたので、ビームラインが空いていたときにはデータ測定をさせていただきました。私の結晶は当たり外れが大きく、実際にビームを当ててみないと単結晶かどうか分からないという非常に困った結晶だったのですが、今回のべ100時間以上もビームラインを使用させていただき、期間中にセレンのMADで構造を解くことができました。

このアシスタント期間中には本当にたくさんの方々にお世話になりました。

SBSPの早瀬さん、宮本さんには大変感謝しております。PFという隔離された世界で、毎日のお茶の時間は楽しみの一つでした。期間中健康を保つことができたのは、このお茶の時間がストレス解消になったからだと思います。

また今回は毎週月曜日には構造生物学研究センターのゼミに参加させていただきました。自分の研究室とは全く違うテーマの研究、手法、発表方法に触れる機会は非常に貴重なものでした。若槻先生、加藤先生をはじめ、スタッフの皆様、学生の皆様にこの場を借りてお礼申し上げます。

鈴木先生、五十嵐先生、松垣先生、三浦さん、大田さん、渡辺さん、スタッフの皆様にはこの場では語りつくせないほどお世話になりました。ユーザーのために毎日昼夜を問わずビームラインと戦う姿に感動しました。これからもお体に気をつけてがんばってください。

本来私は坂部先生のお手伝いをしなければならなかったのですが、今回ISDSB2003の期間と重なり、実験をされていなかったため、その間に自分の実験ばかりさせていただきました。そのような多忙の中、研究のこと、実験のこと、先生の思い出などいろいろなお話をさせていただきました。この4週間は私にとってはかけがえのないものになりました。本当にありがとうございました。